

【研修報告】

第14回欧州呼吸器学会に参加して

川根博司*

はじめに

第14回欧州呼吸器学会年次集会(The 14th Annual Congress of European Respiratory Society; ERS 2004)は2004年9月4日から8日までスコットランド・グラスゴーで開催された。グラスゴーは造船業などを軸とした重工業の都市として知られてきたが、近年は文化都市への脱皮を図っている。学会会場となったSECC(Scottish Exhibition & Conference Centre)は、市街中心部から2km西、かつて造船ドックが集中していたクライド川に沿った地域の右岸にある(写真1)。1985年に展示場・会議場として開設されたSECCは、1997年に3,000席を設けたクライド・オーデトリウム(通称「アルマジロ」)が完成し、各種の国際学術会議からロック・コンサートやプロレス興行まで、様々な形で利用されている(写真2)。この「アルマジロ」では初日にオープニングセレモニーが行われ、アトラクションでスコットランド名物のバグパイプの吹奏を堪能した。今回、筆者は学会4日目に写真1の会場内でのポスターセッションにおいて発表した。その概要を紹介する。

発表内容

世界保健機関(WHO)によると、現在、全世界で年間500万人がタバコにより生命を奪われており、わが国でも年間11万人が喫煙関連の病気で死亡して

いると試算されている。先進国において、喫煙は単一で予防できる病気と早死にの主要な原因である。最近、わが国でますます喫煙が大きな健康問題となっており、将来の看護師を目指して勉強している学生は、喫煙と健康についての基礎知識が備わっていることが期待される。筆者は2000年度に入学した本大学1年生における喫煙の知識に関する調査を行い、喫煙の健康への影響を知らない者が多いことをすでに報告した(川根, 2001)。その論文の中で、大学入学時のオリエンテーションなどにおいて、タバコに関する正しい情報提供が学生に対してなされるべきであろうと述べた。

2001年度の新入生には、4月初めのオリエンテーションの際に、短時間とはいえ喫煙と健康についての話を聞く場が設けられた。そこで、2001年度に入学した本大学1年生においても2000年度入学生と同様の調査を実施して、両者の調査結果を比較してみることにした。なお、喫煙に関する知識を尋ねる小テストの5問は、2000年3月の第94回医師国家試験に出題されたものである。その結果、問1~5のいずれの問題についても、2000年度入学生に比べて2001年度入学生のほうが正答率が高かった。また、全問正解者は5.0%から22.5%へと大幅に増加していた。入学時のオリエンテーションで喫煙と健康について教えることは、喫煙に関する知識を増すのに有用であることが示唆された。しかしながら、今回の

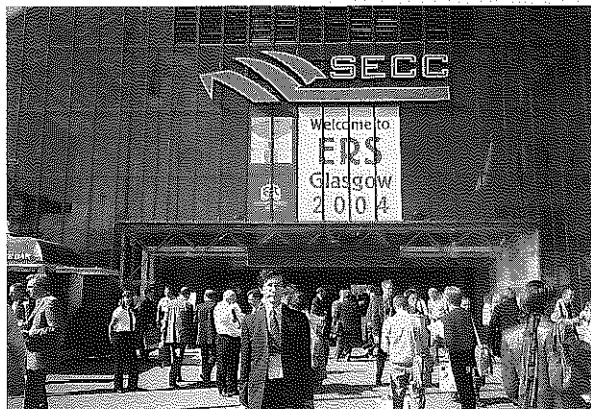


写真1 学会場(SECC)メインエントランス前にて



写真2 クライド・オーデトリウム(通称「アルマジロ」)

*日本赤十字広島看護大学 kawane@jrhcnc.ac.jp

2001年度入学生における調査でも正答率が低い問題もあり、タバコの影響についての情報提供にさらなる工夫が必要であろう。他方、一般大衆に対する啓発も重要であり、わが国でもマスメディアによる禁煙キャンペーンがもっと積極的に行われることが望まれる（川根，2004）。ERS 2004で発表した演題の要旨は、学会誌・増刊号に英文抄録が掲載されていることを記しておく（Kawane, 2004）。

おわりに

欧州呼吸器学会への参加は今回で7回目になる。例年、学会の合間には美術館巡りを楽しんでいるが、グラスゴーでは有名なマッキントッシュのグラスゴー美術学校を見学する機会を得た。ちなみに、優れた建築家であると同時に優れたデザイナーでもあったチャールズ・レニー・マッキントッシュは、スコットランドが生んだ天才芸術家として知られる。また、スコットランド各地の大聖堂は16世紀後半の宗教改革でほとんど破壊されたが、唯一完全な形で残った美しく荘厳なグラスゴー大聖堂も訪れることができた。そして、帰国後にエジンバラで廃墟と化したホリールード教会を見て詠んだhaikuを新聞に投句したところ、幸いにも掲載されたので提示しておきたい(2004年9月25/26日付 The Asahi Shimbun)。

Church ruin
watercolour sky
red flower

ERS 2004に出席してとてもうれしかったことは、Sir John Crofton（エジンバラ大学名誉教授）に再会できたことである（写真3）。クロフトン先生はその業績によりサーの称号を授かっておられて、最近もBritish Medical Journal（2004年6月26日号）の表紙に顔写真が載ったほどの著名人である。1987年に東京で開催された「喫煙と健康」世界会議に出席されたが、会議終了後、筆者の恩師である川崎医

科大学の故・副島林造教授がエジンバラ大学に留学されていた関係で、倉敷にも立ち寄られ講演をしていただいた。その際に筆者がクロフトンご夫妻を広島・宮島などにお連れし、観光案内をしたご縁があったからである。クロフトン先生との出会いは、筆者がライフワークとして禁煙運動に取り組むきっかけにもなったので、ERS 2004の開会式においてクロフトン先生が会長賞を受賞されたことは、誠にご同慶の至りである。

謝 辞

今回の国際学会に出席する機会を与えて下さいました本大学および関係者の方々に感謝いたします。

文 献

- 川根博司（2001）. 看護学生における喫煙の知識に関する調査. 日本赤十字広島看護大学紀要, 1, 29-32.
川根博司（2004）. 禁煙教育. 日本呼吸器学会雑誌, 42, 601-606.
Kawane, H. (2004). Knowledge of smoking among first-year students in a nursing college. *European Respiratory Journal*, 24, 496s.



写真3 ジョン・クロフトン卿（エジンバラ大学名誉教授）と筆者